

中津市中心市街地地区（2 期）

（大分県中津市）

計 画 期 間 平成 22 年度～26 年度
 面 積 250ha
 交付対象事業費 1,900 百万円
 市人口 85,661 人（地区内人口 9,725 人）

ポイント 城下町の歴史と文化に触れる落ち着いた
 のあるまちづくり

地区概要 城下町の歴史と文化に触れられるまちづくりを
 目指し、歴史・文化と調和した公園・広場、道路等の
 整備により、地域の魅力を高め、都市の活性化を図
 る。

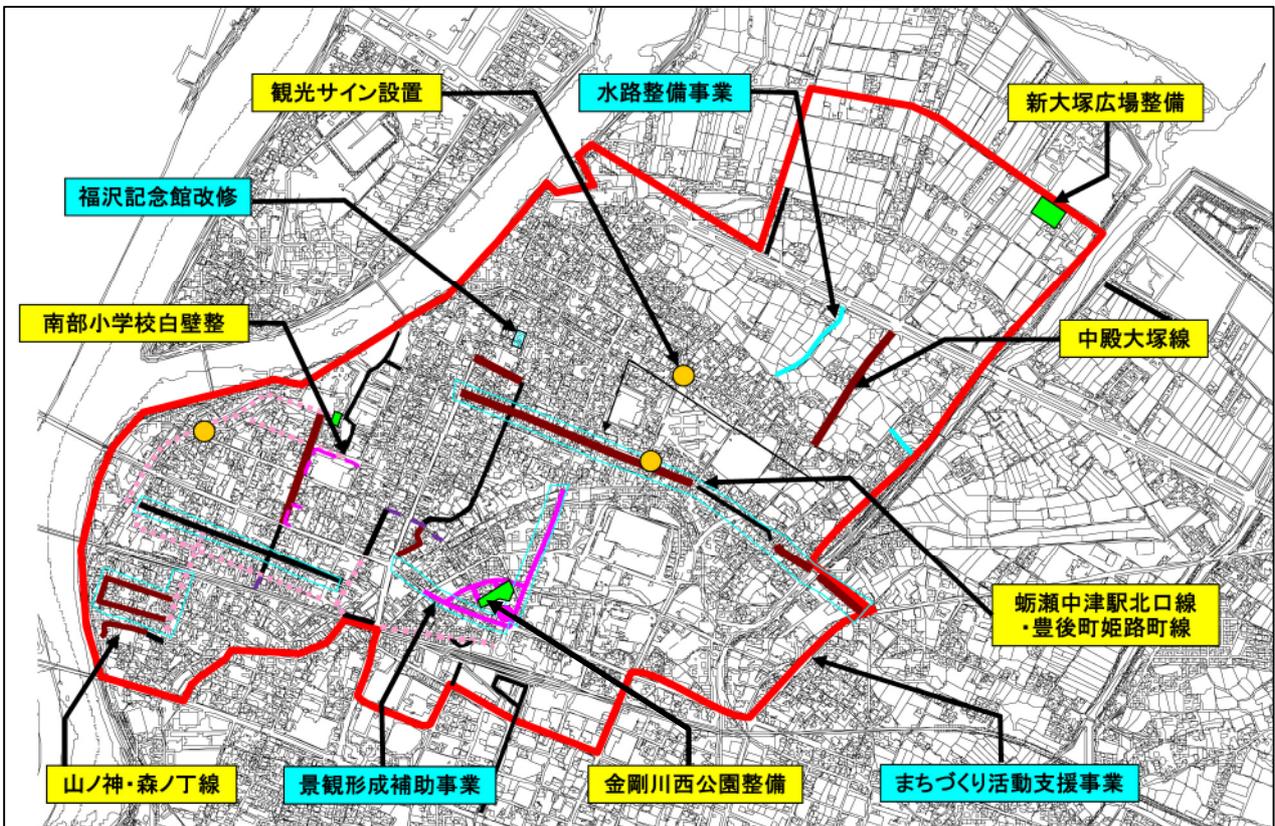
目 標 安全で快適な暮らしの中に歴史的な情緒や魅力を感じるまちづくり。

指 標 生活基盤と憩いの空間の整備によ
 る安全でゆとりある暮らしの実現や
 来訪者に対するおもてなし環境の向
 上による観光客、滞在時間の増加、
 道路整備による道路環境満足度の向
 上を目指します。

生活環境の満足度	3.5 (H21)	3.8 (H26)
歩行者通行量	1,268 (H21)	1,330 (H26)
主要観光施設の入場者数	59,500 (H21)	60,000 (H26)
道路環境満足度	2.5 (H21)	3.0 (H26)

事業内容 基幹事業(1,691.7 百万円) ・道路(4 路線、総延長 1,010m) ・公園(3 カ所、総面積 5,220 ㎡) ・広場(1 カ所、
 総面積 200 ㎡) ・観光サイン ・カラー舗装(6 路線) ・石畳(2 路線) など
 提案事業(208.3 百万円) ・福沢記念館改修(1 棟) ・遊歩道橋(2 カ所) ・水路整備(340m) ・景観形成補助
 (50 戸) ・景観整備に係るワークショップ ・街なみ歴史探検事業 など

〔整備方針概要図〕抜粋



地区の現況と課題

中津市の中心市街地は、城下町時代の町割を残す中津城界限と中津駅南北に形成された新たな市街地で構成されています。この地域の人口は、周辺郊外部への人口移住の進展とともに減少し、高齢化が進んでおり、地域活動を支える活力が低下しつつあります。また、商業活動は、大規模小売店舗の郊外立地が進む中、駅北の大型ショッピングセンターの進出などによる新たな展開が期待されましたが旧来から賑わっていた駅北口から中津城下に連なる商店街等においては、人通りが減少し、空き店舗も目立ちます。



中津城周辺の整備イメージ図

基幹事業の特徴

城下町を回遊する

城下町の風情をもったまちづくりをコンセプトに、特に道路や公園、広場などの公共空間において、中津の歴史と文化を感じさせる良好な都市景観の創出するための整備を進めます。また、区域内の回遊性を高めることにより、観光滞在時間の増加や大型商業施設と商店街の連携強化を図り地域の活性化を促します。



金剛川西公園整備イメージ図



蛸瀬中津駅北口線（楽一通り）



南部小白壁整備（イメージ）



周辺景観に調和したサイン

提案事業の特徴

城下町の風情をもったまちなみの整備

まちの個性や資源を活かした景観形成の取り組みを通じて、地域への愛着や誇りの醸成を図ります。また、まちなみの修景に向けて、人的・財政的な支援を行い、歴史的な風情を感じながら生活や散策ができるまちづくりを進めていきます。



景観形成イメージ図

計画策定プロセス

地元住民と協働

平成17年度、各地区住民、NPO団体、地域活動団体との協働により、「中心市街地再活性化計画」を策定し、第1期都市再生整備計画を推進してきました。

第2期計画（平成22年度～平成26年度）では、第1期の課題事業評価を踏まえ、城下町エリアを重点的に整備し、景観計画（平成22年4月）と連動して、地域の特長や個性を活かした景観形成を進めていきます。

